

IV-74

地方田園都市における農業活性化と地域振興の方策に関する考察

立命館大学理工学部 正 員 春名 攻
立命館大学大学院 学生員 ○馬場 美智子
立命館大学大学院 学生員 桑垣 誠

1. はじめに

近年、日本の地方都市、特に田園・農村地域では、農業の効率性・生産性の向上が望めず、生活水準の低下や地域開発の格差、高齢化・過疎化などの様々な問題による農村地域の社会システム崩壊の危機が高まってきている。このように、田園・農村地域の現状においては様々な観点から改善策として、地域振興と地域活性化をめざした地域整備プロジェクトが求められている。そこで、本研究では、このような地域の地域開発・農業振興問題を研究対象として取りあげる。即ち、地域健全・安定的な発展を目指した地域開発方策として、その地域の伝統的産業である農業の近代化・今日的農業化を目的とした新しい農業関連事業展開問題を取りあげ、システム論的な観点から多角度・多面的に考察を加えていくこととする。

2. 地域整備プロジェクトの展開に関する考察

この地域整備プロジェクト展開を3ステージとして考察を加えることとし、図-1に示す。

(1) 第1ステージ

第1ステージでは、個々の既存農業生産を協調的に行うための合理化方策として、計画的作物生産・集荷のための農産物需要に関する情報収集・利用のための情報基地の整備、作業効率化のための共同集荷・保管・出荷体制の確立、人材・機器・農業の共同調達・利用システムの確立、等々の分野での協調的運営体制を、農協を中心とする第3セクターによる穏やかなネットワーク化によって実施し、収益性と採算性の向上が実現できる企業システムの体制として確立する。

(2) 第2ステージ

第2ステージでは、地域全体の個々の農業生産基地をより強固にネットワーク化するに当たって、個々の生産基地

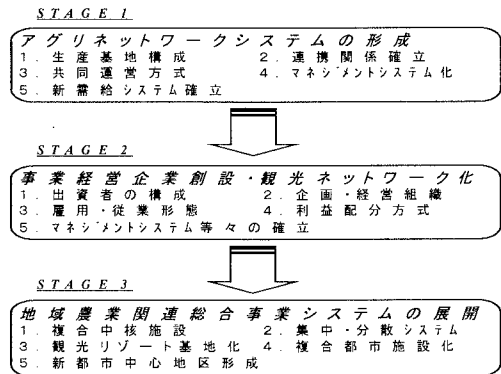


図-1 地域整備プロジェクトの3ステージ

を余暇時代にマッチした観光・リゾート集客施設化する部分を創設または改造して、他地域から集客することを考える。さらに、訪問客を消費者と考え、その人々を対象にした作物生産・製品加工・商品販売・サービス提供を一貫性のあるシステムとして複合化して企業化を促進することにより、安定的で計画的な事業運営が可能な効率的で機動力のある企業体制を確立し、生産性・採算性の高い総合的農業展開を目指すステージとする。

3) 第3ステージ

第3ステージでは、集客性の高い核施設や、消費・需要に柔軟に対応し得る新体制生産基地の地域内分散配置がおこなわれた後、それらを統括する役割を有する大規模・複合型総合農業公園施設を整備し、地域農業事業全体の中核・中枢施設として位置づける。つまり、地域全体での農業関連事業の「集中・分散体系」を完成させようと考えた。この中核・中枢施設では、地域内観光・リゾート基地機能の整備や、農作物とその加工品さらには地場産品などの直販・発送のための商業・流通施設整備はもとより、可能な交流施設などの複合的都市施設を整備して、既存都市中心

キーワード：農業公園 地域活性化 観光・リゾート

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

TEL/FAX : 077-561-2736

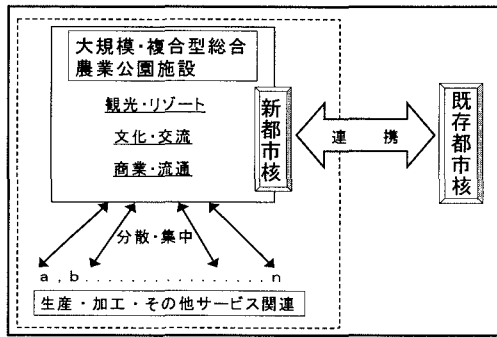


図-2 中核的・複合型農業公園を中心とした地域整備概念図

地区とデュアルモードを構成する新都市中心地区形成を促進することとする。即ち、この最後の段階は地域を新しいタイプの地方田園都市へと展開を図るステージとする。この考え方を図-2に示す。

3. 大規模農業公園の集客力に関する実証的考察

ここで、地方田園都市の農業活性化と地域振興に重要な役割を果たす農業事業であり、新都市核の中核的な施設となる大規模・複合型農業公園に関する考察を加えていくこととする。目標達成において、大規模・複合型農業公園の経営問題は、重要な問題であり、また、その経営問題は、集客力の確保という問題によって大きく影響される。そこで、大規模農業公園の集客性について滋賀農業公園で行った実態調査に基づいて実証的に考察を加えることとする。

滋賀県日野町に立地する滋賀農業公園の総来訪者は開園から約10ヶ月で100万人を超え、来訪者に対するアンケート調査分析結果から、約5時間が最大集客範囲となり、距離と来訪率を指数関数で表すと図-3に示すようになった。また、来訪者の農業公園に対する評価は相対的に高く、施設に対する満足度も高い傾向となっている。さらに、来

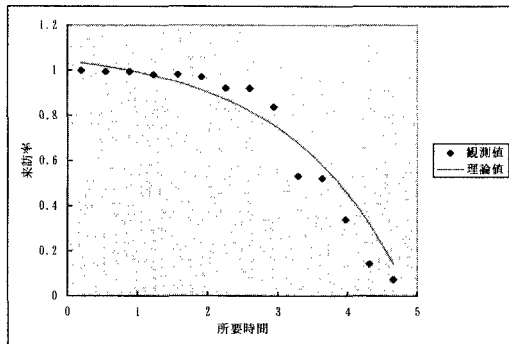


図-3 滋賀農業公園における所要時間と来訪率

訪者のうち約20%が再来訪者となっており、また、再来訪への意向も高いことから、リピート性は非常に高いことがわかった。このように、大規模農業公園が農業活性化と地域振興の方策として、十分な集客力を有すると考える。

4. 大規模・複合型農業公園整備による地域効果に関する考察

さらに、先述のような考えの下、大規模農業公園を中心とした新都心核の創設を行い、図-4に示したような地域の農業と関わる様々な都市社会形成要因の明確化を行うとともに、農業公園を中心とした中核的・複合型農業関連施設の計画問題の定式化をめざしていくこととする。また、都市・地域社会形成における地元雇用や所得、地方財政への影響の評価を行い、計画の妥当性を計っていくこととする。

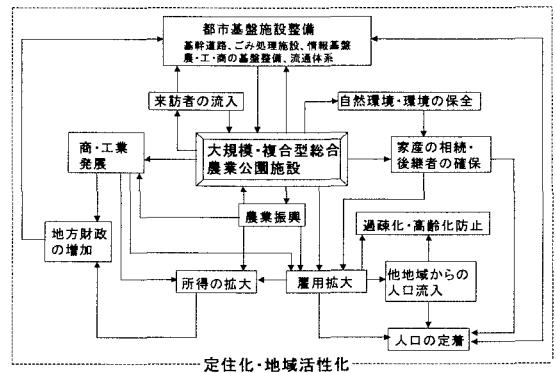


図-4 地方田園都市における都市社会形成要因と地域振興の概念図

5. おわりに

本研究では、大規模・複合型農業公園を中核施設とした地方田園都市における農業活性化と地域振興の方策に関して考察を行う中で、地方田園都市の整備の方向性と具現化されるべき社会形成要因の明確化を行った。今後は、このようなネットワーク型の集客型農業施設の経営体制や地域効果のシミュレーションを行うとともに、農村地域計画のを包括的な検討を行っていくこととする。

【参考文献】

- 1) 脇田武光ほか：観光開発と地域振興【グリーンツーリズム 解説と事例】，古今書院，1996。
- 2) 竹林幹雄：地域マネジメントシステムの農業活性化への適用に関する一考察，土木学会第51回年次学術講演会(1996)